

## 令和5年度 第1回鹿島市水道事業審議会 議事録（概要）

1. 日時：令和5年7月14日（金）13時半～15時
2. 開催場所：鹿島市役所5階大会議室
3. 出席者
  - （1）委員：池田委員、片淵委員、亀井委員、喜多委員、合六委員、小柳委員、高田委員、田口委員、武富委員、中島委員、中橋委員、淵上委員、迎委員、森委員
  - （2）事務局：松尾市長、中村水道課長、迎課長補佐、椛島課長補佐、富岡工務係長
4. 内容
  - （1）開会
  - （2）委嘱状交付  
松尾市長から池田様に委嘱状を交付した。
  - （3）市長あいさつ
  - （4）委員及び事務局職員の紹介
  - （5）会長及び副会長選出  
会長に片淵克弘様、副会長に池田健一様を選出した。
  - （6）会長あいさつ
  - （7）市長から諮問  
市長から片淵会長へ諮問書を手渡した。
  - （8）議事

議題（１）「鹿島市水道事業について」

議題（２）「鹿島市水道事業中長期財政計画（概要）」

議題（３）「水道事業審議会及び料金改定スケジュール」

について、事務局から説明した。

**A 委員：**2点聞かせてください。私が6次拡張に携わったときは漏水がものすごく多くなって、管自体が古い管ばかり、夜中いつも漏水をしていたという実態で6次拡張のときに、ダグタイムキャスト管に、布設替えをしました。だいぶ漏水が減ったと思います。管が漏水しない間は修繕しなくていいわけですからその分長持ちさせればお金も安くなってるだろうと思います。今漏水率はどれくらいですか。

**事務局（中村課長）：**漏水率といいますか、有収率が77.6です。有収率というの配水池、タンクからお配りする量をもとに、メーターでいくら使ったかの比較になるんですが、普通は送った量と、使った量が一緒にならないといけない。そのロスが約20%近くあります。このロスの原因として、第1に考えられるのは先ほど申し上げた漏水によるロスですね。あとは消火栓からですね、消防活動で使うとかいろいろあるんですけど、ほとんどが漏水になってるかと思います。最近の本管の漏水が、微増している形ですね。大体本管の漏水というのは、塩ビ管でできた管、これがやはり割れて漏水しております。委員が、おっしゃった铸铁管に関しては今のところ漏水の事例が少ないです。そういった意味でも先程申しました40年という耐用年数を、60年とか、もっと先の80年100年というメーカーの保証もありますが、そういった管は後回しにして、塩ビ管を優先して布設替えします。最近では耐震とか災害に強い管、こういったのも合わせて、とにかく重要な路線をまず、替えていく。事業費を確保して、铸铁管といえども、40年過ぎた管はどうなるかわからない、前倒しとかそういった形で分散して、更新計画を立てていきたいと思っているところです。ただ、全体の220キロというのは、莫大な数字ですので、一気に替えることができない、なるべく平準化することで、料金を抑えられないか検討しております。

**A 委員：**人口が減少していくというのが一つ影響してるんですね。管を布設するのにお金がかかるというのもあるし、材料費などいろいろかかるというのもあります。以前は1メートル50センチの深さに管を埋設するのが基本でしたけど今は60センチになってます。車道でも60センチになっているのか。その分塩ビ管に圧力が加わって漏水するというのはあるかもしれないですね。ただダグタイ

ル鑄鉄管になってからの漏水はないと言われている。以前は本管ばかり漏水していた。人口の減少と有収率が下がってるので料金を上げざるを得ないというのも、理解はできます。

**B 委員：** 初歩的な質問になるかと思いますが、塩ビ管というのはまだ相当、量が多いんでしょうか？塩ビ管は使わないよという時代がきてたかと思うんですけど。

**事務局（中村課長）：** 塩ビ管の使用ですが、やはり昔の配水管には塩ビ管を使っておりまして、弾力性があってもつんですけど、古くなって硬くなると、衝撃を受けたらよく割れて、漏水の原因となっております。最近、ゴムのようなものを練りこんで衝撃に強いような管路が出ております。それと、もう一つポリエチレン管という、また若干違うものもあります。材質が少しずつ良くなってるものに切り替えさせていただいて、布設替えをしているところです。また、鑄鉄管と塩ビ管と比べますと、お値段が倍とまでは言わなくても、価格差があり、ケースバイケースで絶対そこは壊れてはいけないところは強い管で修理をするか、少し更新を早めて、安い方を配置できないかとか、そういった検討をしてなるべく費用を抑えたいというのもあります。

**事務局（迎補佐）：** 管路の延長につきましては、配水管と送水管がありまして、実際水を配る配水管の中で、200 キロのうちに、塩ビ管が、110 キロ程度、約半分程度です。

**事務局（中村課長）：** 今後、また整備をするにあたって、材料とか、費用を含めて改めて計画を立てておりますので、反映させていただきたいと思います。

**C 委員：** 内容を見ていて、上水道、簡易水道、小規模水道とありますね。簡易水道というのは、私の会社は能古見の方にありますけど水道料を払ってないです。井戸水を使ってある所も、個人的にされているのか。地図を見ていたら、山の方はどうなっているのかお尋ねをしたいと思います。

**事務局（中村課長）：** 資料3の3ページの水道事業地図をご説明いたしますと、どうしてもタンクが高い所から低い所へいきますので、そのタンクから上とか水圧の関係で水がいかない地区があります。上水道は水色の地区になっておりまして、それ以外にこの茶色とか紫の地域が、さっきおっしゃった簡易水道とか、小規模水道になりますが、その住民の方が、自分たちで経営をされており、料金はまちまちです。そういった中では市の水道料金より、施設の規模から言うとそう高くないと思います。そのような中で、ご苦労されて経営されています。ただ、施設の維持管理とか、更新も自分たちでしなければならないというところになります。そういった方々が、運営されている、民営水道となってまいります。

**副会長：**資料4の14ページに赤字になると書いてありますよね。赤字というのは、利益、減価償却費を除いて損益が赤字ということですよ。今年の決算を見てたら、減価償却費が2億円ぐらいあって、キャッシュが3億円ぐらい残って、借金の返済1億8千万と施設費が2億1千万ぐらいということで、単純に言うと1億円ばかりお金が減っているという認識で間違いはないですか。

**事務局（中村課長）：**はい。追加でご説明しますと14ページの料金のシミュレーションでございますが、今年度1億円で工事をしております。令和6年から、先ほど申した約3億円に上げて、10年、工事をするといつぐらいまでもつかというシミュレーションです。

**副会長：**もう一つですね。同じ30%引き上げても16年度に赤字となると書いてありますよね。そのグラフはずっと赤字ですね。またそのとき、値上げが発生するということでしょうか。

**事務局（中村課長）：**はい、次の2回目以降でそのような資料を出して検討していくような形で考えておまして、わかりやすいグラフということでさせていただいております。おっしゃる通り、やはり赤字になった時点では、料金改定が必要なんですけど、この時点で状況がわかりませんが、基本的に途中で申し上げた3年から5年ぐらいでは見直しが必要です。その時点で、もうすぐ赤字が予測されるとしても、今回のように、またお諮りするような検討が必要だと思いますので、今回はあくまでわかりやすいような形で表記をさせていただいております。

**D委員：**資料4の先ほどの14ページなんですけれども、水道料金のパーセントで言いますとね、15、20、30%ではね、正直言ってイエスと言えるような数字じゃないと思うんですよ。ですけどですね。今いろんな給料とか見てますと確かに10%前後ぐらい上げるように言われておりますけれども、それで最低賃金も今3%ぐらい上げるといわれてます。しかし、30%値上げして令和16年度に赤字になるということですけれど、これに比べて縮小して、1桁台で少しずつ見直していく、そして5年後に見直すような、そういう段階的に、上げるような形であったら、ある程度納得していただけないでしょうか。やっぱり維持管理も必要ですし、赤字を出しますと結局は市民に負担がかかってくるということもあります。受益者負担ということもありますので、少しずつ値上げはやむを得ないんじゃないかなというふうな気がします。

**事務局（中村課長）：**ありがとうございます。先ほども申しましたが、そういった内容の資料を2回目以降に出させていただきます。今回の目的の一つが、先に見えてくる、老朽管、事故とかそういったことを予防して、皆さまが普通に使えて、蛇口をひねったら当たり前に出てくるような水道を守りたいと、最近断水して水が出ないという事態は避けたいということ。そのためには、計画的に更新せ

ざるを得ない。収入が足りない。しかし、今の世の中、何でも値上げしている、給料はそうそう上がらない、その中でこういったご負担をお願いしなければならないのか、そういったことを含めて、2回目以降、そういった資料を出させていただいて、またお話を伺えたらと思っております。

**E 委員：**今、他の委員のお話がありましたけれどですね、ここに15%、20%、30%引き上げということで明記をされておりますけども、次の7月の26日、水道料金改定案ということで明記してございます。そのときはあらかじめの金額等、表示のうえ、協議するのでしょうか？それともう一点です。世の中の動向を勘案して、市民の皆様に公表するわけですから、あんまり極端な上げ方は大変だなと私も存じております。やっぱり世の中の動向を見て、パーセンテージの検討された方がいい。ここに15%20%30%ということで、これは案ということで書いてありますけど、もう少し熟知したパーセンテージの方を提案してもらった方がいいんじゃないでしょうか？以上です。

**事務局（中村課長）：**ありがとうございます。おっしゃる通り、やはり役所で考えますとどうしても必要だという目線になってしまいますので、世の中の動向とか、皆様のご意見っていうのがとても重要だと思っております。そういった中で、どのぐらいもつかという中長期財政計画のシミュレーションでシミュレーションした結果、30%ということでした。国の資料で、安定した運営ができる目安として60%増というものがあります。これは実際全国の財政状態をシミュレーションした結果、最低60%値上げしないと、安定していかないというような数字もお出ししております。ただ、今の時代あり得ない数字というのは認識しています。途中コロナ禍があって、収入とか世の中厳しい中で、料金値上げをすとしても、なかなか水道課だけでは、決定することが難しいので、今回ご意見をいただきまして、慎重に進めていくということで、集まっております。次回、いくつか金額を合わせて、ご意見をいただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

**F 委員：**先ほど委員さんからのご質問で、課長の方から今、国の考え方の話がありましたので、私、九州の方、全般的な公営企業の支援とか、国の総務省の絡みで公営企業のアドバイザーをやらせていただいておりますので、多少実情を把握しておりますので、考え方のところをちょっと皆さんの方に共有していただこうかなと思います。確かにおっしゃられる通りだとも思いました。この改定率をどこまで上げるかっていうのは、今回の一番悩ましいところだろうと思います。一つ、私達が考えていただきたいところとして思うのは、今現在ですね、今回10%上げるのと、10年、20年後に上げる10%が全く同じかということ、全く違うということだけは間違いないと思います。理由としては、その時点の人口が今より圧倒的に少なくなっているということは、今の10%はその10年後の10%にすると多分、5%とか3%ぐらいの状況にしかならないと思います。ということは、将来の子供たちにその分例えば低く

した分は全て負担が行くというのはすごく難しい問題になってきます。やはり長期的に考えるというのは、ある程度どの世代の負担が必要か。これは鹿島市だけの問題ではなくて、日本全国の水道を考える問題として、長期的に見ていくときに、今上げるのか、将来上げるのかというのは、間違いなく将来の子供たちの負担が圧倒的に大きくなるというところが問題であり、難しいところではないかなと思っています。その中で、やはり落とすどころという考え方になろうかと思っておりますので、今出されてる案は案として、また数字を低くした場合は、そのシミュレーションをどう考えるかというところもあわせてですね、皆さんと一緒に協議して、より良い鹿島市の水道事業のあり方というのを考えていくというのが非常に重要になると思っております。国の言う60%はですね、この無謀な数字かなという話もあろうかと思っておりますけど、実は他のところでシミュレーションにしたら、安定するタイミングがどれぐらいの数値というのは実際に出てきてるといえるかと思っております。ということは、将来まで60%はちょっとわかりませんが、低く上げた場合は、その残りの部分はどんどん将来に負担が送られますので、全体的なバランス、そういったものを考えて、あるべき姿と一緒に検討させていただいたら、負担ばかりになるかもしれませんけれども、鹿島市としては結果、いいという結論も出るんじゃないかなと思っております。いろいろご意見を皆さんと一緒に考えていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。以上です。

#### (9) その他

**会長：**ありがとうございます。他に、ございませんか。こちらで用意した議題は以上ですけれども、それ以外に、何かこの質問をしたいとかございましたらお願いします。よろしいですか。それではご質問等ないということですので、次回の開催は先ほど事務局から説明があつて、7月26日水曜日1時半から、場所は今日と同じです。それでは、長時間にわたりご協力ありがとうございました。これをもちまして、第1回鹿島市水道事業審議会を終了いたします。ありがとうございました。

#### 5. 配布資料

- ・水道事業審議会委員名簿（資料1）・鹿島市水道事業審議会条例（資料2）
- ・鹿島市の水道事業について（資料3）・鹿島市水道事業 中長期財政計画（概要）（資料4）
- ・水道事業審議会及び料金改定のスケジュール（資料5）